

いわた 文化財だより 第212号

目次

- 新たに市指定文化財に！
成瀬家文書&新豊院山古墳群出土資料・・・P1～3
- 『国分寺まつり IN 遠江』開催のお知らせ・・・P4
- コラム『家康ゆかりの地・中泉御殿』
安藤寛・・・P4

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和4年11月1日発行

新たに市指定文化財に！

成瀬家文書 & 新豊院山古墳群出土資料

成瀬家文書と新豊院山古墳群出土資料が、市文化財保護審議会の答申を受け、令和4年9月28日、磐田市指定文化財に加わりました。これで市の指定文化財は135件になります。

成瀬家文書は、交通や財政関係の書状など、近世の見付宿の歴史を知るうえで貴重であることから指定にいたりました。また、新豊院山古墳群出土資料は、近畿地方の大和王権との結びつきや、遠江地域における弥生墳墓から古墳への変遷を知るうえで重要な資料であることから指定されました。また、今回は、この2つの文化財について紹介します。

成瀬家文書

成瀬家とは

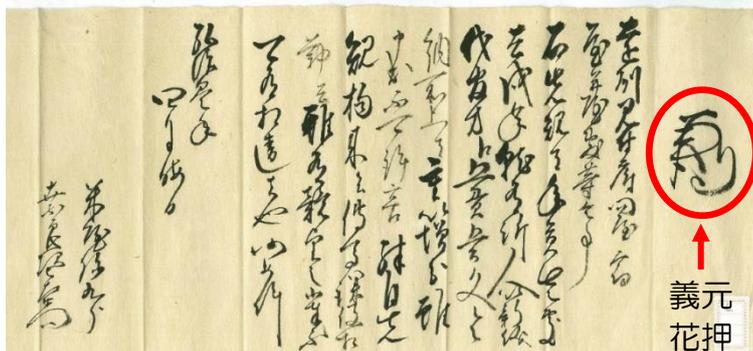
中世・近世を通じて問屋・宿屋等を営んだ見付宿の有力者です。徳川家康により、永禄12年(1569)には枡座(※)の規定が定められ、12人を見付宿枡座の代表としました。この12人が町の代表者と言えますが、成瀬家はこの12人を束ねる立場だったと考えられます。近代においても成瀬家の人々は見付で酒造業を営む傍ら、その地位を保ちました。

(※)江戸幕府が、それまで様々な規格であった枡の全国統一を目指して設けた枡の独占的製造販売業者。

成瀬家文書とは

今川義元とその息子である氏真(うじまこと)の書状や、近世の見付宿の交通、財政関係の書状など、見付宿に関わる歴史を知るうえで貴重な史料です。今回1,998点の古文書と、断簡(部分的に残っていた古文書類)一括が市の指定文化財になりました。代表的な2点を紹介します。

今川義元判物



今川義元判物 遠州見付問屋並屋敷等之事

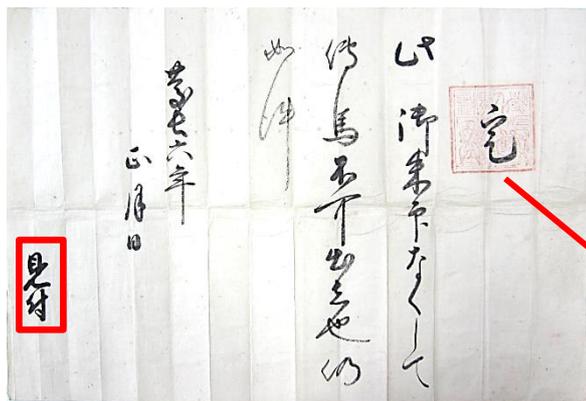
弘治3年(1557)4月に今川義元が公事検地(課税調査)をし、見付の問屋、宿屋、屋敷などに課税をおこなったときの書状です。

書状の右側に今川義元の花押(サイン)が記されています。



WEBで公開中

てんま 伝馬朱印状



徳川家の伝馬朱印状

けいちよう
慶長5年(1600)、関ヶ原の合戦で勝利した徳川氏が、翌年、東海道各地に与えた朱印状です。

右に押された朱印には、「伝馬」という文字と馬をひく人が描かれています。また、東海道の宿駅と定められた場所が、末尾に書かれています。



伝馬朱印

WEBで公開中



公開情報

上記2点のほか、電子図書館にて一部資料を公開しています。また、伝馬朱印状ほか代表的な資料を、令和5年1月16日(月)から始める企画展で展示予定です。詳しい内容は次号の文化財だよりにてお知らせします。



電子図書館二次元コード

「資料を探す」の項目に“成瀬家文書”を入力して検索!

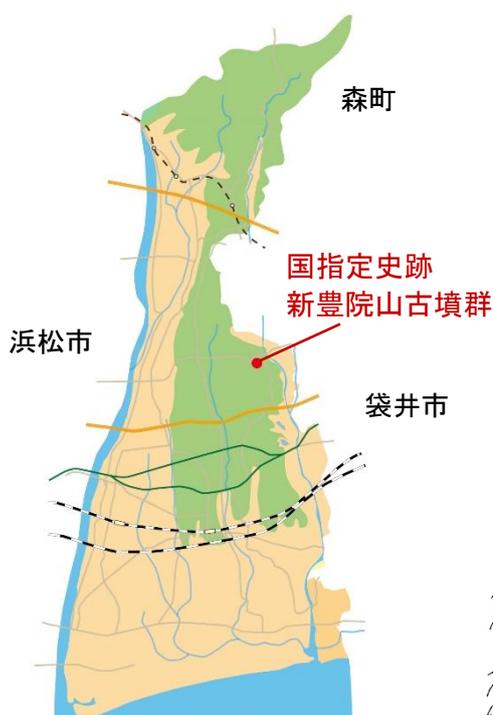
新豊院山古墳群出土資料

国指定史跡新豊院山古墳群とは

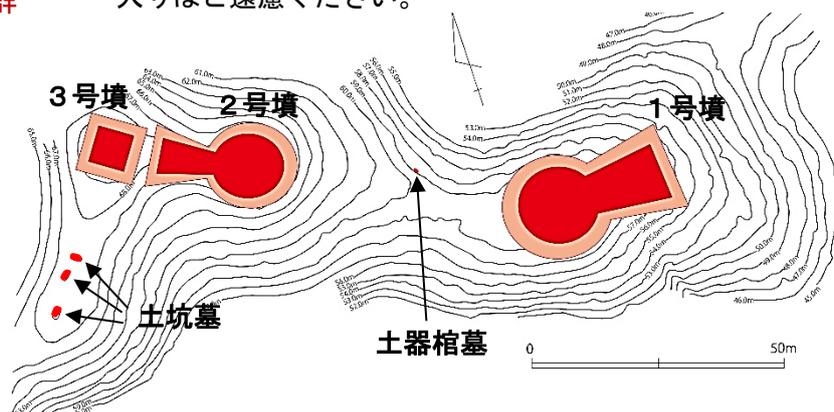
向笠竹之内地内にある曹洞宗寺院、鷲溪山新豊院しゅうけいざんの北側にある、磐田原台地の尾根の先端部分に築かれた弥生時代から古墳時代にかけての墳墓群です。

昭和55～57年の発掘調査で、弥生時代中期の土器棺墓や土坑墓群、古墳時代初頭の台状墓1基(3号墓)、古墳時代前期の前方後円墳2基(1号墳、2号墳)が見つかりました。弥生時代から古墳時代前期にかけての墓のあり方の移り変わりを知ることができる貴重な遺跡です。

※見学路が崩れる危険があるため、新豊院山古墳群への立ち入りはご遠慮ください。



新豊院山古墳群位置図



遺構配置図

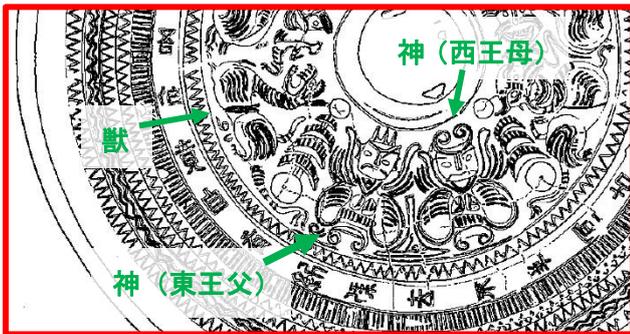
新豊院山古墳群出土資料とは

新豊院山古墳群から出土した遺物で、弥生時代から古墳時代前期にかけての土器や、石器、鏡や武器等の金属製品があります。ここでは、市内最古級の前方後円墳である2号墳から出土した金属製品を紹介します。当時、金属で作られた道具は貴重で、近畿地方の王たちとの交流で入手したと考えられます。

● 三角縁神獣鏡

2号墳の棺内から出土しました。直径21.5 cm、最も厚い部分で約1 cmの厚さがあります。

三角縁神獣鏡は、古墳前期の有力な古墳にしか納められない鏡です。鏡の縁の断面が三角形状で、背面には銘文とともに名前の由来にもなっている神や霊獣が鑄出されています。



三角縁神獣鏡（背面）の実測図

三角縁神獣鏡（背面）

銘文（黄色矢印から反時計回りに）
「吾作竟自有紀 辟去不羊宜古市 上有東王父西王母 令人長命多孫子」

● 銅鏃

青銅で作られたの鏃（^{やじり}矢の先端につける武具）が28点出土しました。大きさは約6 cmです。



銅鏃



銅鏃・鉄鏃出土状況

● 鉄剣と鉄鏃

右の写真は、鉄で作られた剣と鏃です。約5 cmの鏃が22点出土しました。剣は6本出土しており、長いものは、約40 cmあります。



鉄鏃



鉄剣

公開情報

三角縁神獣鏡を展示します。また、初公開の三角縁神獣鏡3次元画像では、普段見られない表面や横からの角度の鏡をご覧いただけます。このほか、古墳群から見つかった金属製品も展示します。ぜひ、この機会にご覧ください。

とき 令和4年10月29日（土）～11月4日（金） 入館無料・会期中無休

平日 8時30分から17時 / 土日祝日 9時から16時

ところ 磐田市埋蔵文化財センター（磐田市見付3678-1）



『国分寺まつり IN 遠江』 開催のお知らせ



文化財課ブース
(2019年撮影)

国分寺とは、奈良時代に聖武天皇が、仏教の力で国が安定することを願い、全国各地に建てた寺院です。遠江国分寺跡は、その跡のうち全国に3箇所しかない国の特別史跡のひとつです。ぜひ、この機会に遠江国分寺跡を訪れてみませんか。

とき 11月12日(土) 9時~14時(雨天時翌日に順延)
ところ 遠江国分寺跡史跡公園(市役所北側)

①国分寺展望ツアー(無料)

市役所6階から国分寺跡を見学します。史跡の全景を一望できる、絶好の機会です。

★ツアー出発時間 9時35分、10時50分、12時45分

★所要時間 約35分 ★定員 16名

★集合場所 文化財課テント

②礎石・仏像見学ツアー(無料)

塔跡の礎石や現国分寺にある仏像を見学します。

★ツアー出発時間 10時15分、11時30分、13時25分

★所要時間 約30分 ★定員 20名

★集合場所 文化財課テント

③出土遺物等の展示 文化財課テントでは、遺物の展示やパンフレットを配布します。

問合せ先 文化財課事業について 電話 0538-32-9699

国分寺まつりについて 電話 090-9021-1327 (実行委員会 今井)

職員リレー コラム

ごてん 家康ゆかりの地・中泉御殿

安藤 寛

来年の大河ドラマの主人公が徳川家康ということで、ゆかりの市町ではいろいろと準備をしているようです。私と家康との関わりはというと、平成15~16年度に磐田駅の南側でおこなった中泉御殿跡の発掘調査を思い出します。

中泉御殿は、家康が天正14年(1586)に家臣・伊奈忠次いなただつぐに命じて中泉地内に造営した宿泊・休憩施設です。江戸時代には將軍の上洛や鷹狩りに利用されました。広さは、1万坪あったとする史料もあり、正に「御殿様」が利用した施設でした。発掘すると、土塁や堀の跡のほかにヒノキ材を使った門や板塀などの跡が見つかりました。

ではなぜ家康はここに御殿を造ったのでしょうか。それは、この場所が東海道に近い交通の要衝であり、東・南・西には湿地や低地があって、北側の守りを整えれば立派な「城」となるからです。しかも敷地内には豊富な水が湧く井戸が多数ありました。

発掘調査をおこなった大手スーパー周辺地域には、現在も「御殿」の地名が残っているほか、標高差で堀と土塁があったとわかる場所もあります。一度歩いてみてはいかがでしょうか。中泉御殿周辺も紹介した『ふるさと散歩中泉編』をご覧くださいませ ⇒



中泉御殿の門跡



編集後記 国分寺まつりで、展望ツアーをおこないませう!文化財課のブースでは、ツアーの受付以外にも、パンフレット配布や遺物の展示をします。ぜひお立ち寄りください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより

検索